

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2020-003
2.研究課題名	comfort food に関する比較文化心理学的研究
3.研究期間	令和2年6月（部局長承認後）～ 令和3年3月31日
4.研究の概要	<p>意義・目的（研究の背景・目的や倫理的項目についての的確に記すこと。）</p> <p>ストレス誘発性の摂食行動時には、ポテトチップスやチョコレートなど、高糖質・高脂質の食物が多いことが欧米で報告されている。一方で、国内ではストレス誘発性の摂食行動で食べられるものとして、ご飯やおにぎりなどの白米が顕著であることが報告されている。ストレス誘発性の摂食行動時によく摂取される食物は comfort food と呼ばれている。</p> <p>本研究では、このような comfort food の文化差について質問紙法により調べる。食文化の大きく異なる日本、ロシア、タイの3国における comfort food と、それらの comfort food を摂取した時に生じる感情あるいはストレス解消効果について、質問紙法により調査する。</p> <p>本研究ではストレス誘発性の摂食行動を対象とするため、本倫理審査委員会に申請することにした。なお、回答は任意とし、回答を中断することも可能なため、参加者の負担はほとんどないと思われる。</p> <p>方法（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと）</p> <p>東北大学学生（日本人）100名、モスクワ国立大学学生（ロシア人）100名、チュラロンコン大学学生（タイ人）100名を予定する。男女構成比は考慮しない。対象者はそれぞれの大学において、口頭および掲示による募集を行う。本研究は以下に示す質問紙1～3からなる。参加に際して、謝金等は生じない。</p> <p>質問紙1：食行動質問紙調査（添付1）van Strien et al. (1986)による DEBQ（Dutch Eating Behavior Questionnaire）の日本語版：気晴らし食いの欲求の強さや頻度などを調べることができる。</p> <p>質問紙2：食物渴望調査（添付2）FCI-J（Komatsu, 2008）に基づき、リストアップされた食物の種類を追加したもの。</p> <p>質問紙3：気分が良くなる食物調査（添付3）Hill et al. (1991) による comfort food に関する概念（CSS）に基づき、FCI-J の食物リストを用いて作成した調査紙。</p> <p>問い合わせ・苦情等の窓口（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと）</p> <p>文学研究科心理学研究室（022-795-6048） 東北大学川内南地区「人を対象とする医学系研究」倫理審査委員会事務局（022-795-6103；sed-syom@grp.tohoku.ac.jp）</p>